

アンケート集計速報

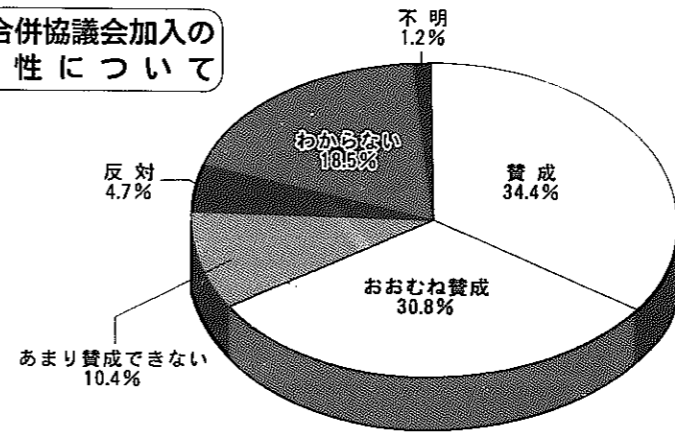
市民意識調査「市町村合併問題に関するアンケート調査」

市では、市町村合併に関する市民の意見を把握し、今後の白根市の将来を考える基礎資料にするためアンケートを実施しました。今号では、集計速報として「任意合併協議会の加入の必要性」の結果をお知らせします。そのほかの結果については、9月1日号に掲載する予定です。

～調査の概要～

調査対象	白根市内に住所を有する、満20歳以上の男女
調査期間	平成14年6月10日～21日
調査方法	郵送によるアンケート調査
標本抽出法	地区別、年齢層別、男女別の構成比とする無作為抽出法（等間隔抽出法）
調査標本数	6,000サンプル
回収数	3,850人
回収率	64.17%

任意合併協議会加入の必要性について



Q あなたは、白根市が国の方針を受けて新潟県が作成した合併パターン（白根市を含む新潟市周辺の10市町村※1）を前提にして、関係市町村と合併後のまちづくりや行政制度調整などの具体的な協議をすることについてどう思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

※1 新潟市・新津市・白根市・豊栄市・小須戸町・横越町・亀田町・味方村・月湯村・中之口村

1. 賛成	1,326人
2. おおむね賛成	1,185人
3. あまり賛成できない	400人
4. 反対	180人
5. わからない	712人
不明	47人

新潟市へ任意合併協議会の加入を申し入れ

7月19日、吉沢市長は河内市議会議長とともに、新潟市の長谷川市長と松原市議会議長に、任意合併協議会の加入申し入れを行いました。

これは市町村合併の事前協議として位置付けられる、任意合併協議会への加入の必要性をアンケート調査した結果、上のグラフのとおり回答者の65.2%が「賛成・おおむね賛成」と加入への賛意を示したことや、市民の声などを総合的に判断して行われました。

吉沢市長は、「新潟市をはじめ関係7市町村（※）で設置の合意をしている任意合併協議会に加盟し、田園型政令都市・新潟の実現を目指し、1回目からの協議に参加したい」と考えを伝えました。

それに対して長谷川市長は、「これから関係市町村と、できるだけ早い時期に協議に入り、よりよいまちづくりを目指したい」と答え、協議会への加入申し入れを歓迎する意向を示しました。

今後、協議に参加することにより、合併の賛否を判断するための、具体的な情報提供ができることになります。



※7市町村の任意合併協議会へ申し入れて何？

新潟市・豊栄市・西川町・味方村・湯東村・月湯村・中之口村は、任意合併協議会を設置する合意をしていますが、協議はまだ始まっていません。白根市は、この7市町村の任意合併協議会に加盟し、1回目からの協議に参加したいと申し入れを行いました。

亀田町・横越町は、新潟市と任意合併協議会を設置し、協議が行われています。

市民の声を反映した計画策定に着手

第1回白根市健康づくり推進計画策定委員会



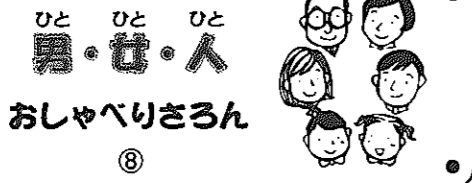
六月二十七日、市役所大会議室で第1回白根市健康づくり推進計画策定委員会が開かれました。これは、国の国民健康づくり運動を受け、市の状況に応じた健康づくりの具体的な計画を策定しようと委員会を発足したもので、公募市民や関係団体による「市民検討委員」などで構成されています。一回目の会合では、新津健康福祉環境事務所の白川紀子地域保健課長による国や市町村の健康づくり計画についての講話や、スケジュール説明などが行われました。

捨てられた三・七トンの良心

信濃川クリーン作戦



七月十四日、「信濃川クリーン作戦」が実施されました。開会セレモニーが行われた鷺ノ木水門周辺では、大通・鷺巻地区の各自治会やボランティアなど、たくさんの人たちがごみ拾いに参加しました。「昨年よりも悪質なごみは少ない」と話す人がいる一方で、「動物が生きたまま袋に詰められて捨てられていた。本当にひどすぎる」と怒りをあらわにする人もいました。減ることのないポイ捨て・遺棄・不法投棄。今回の作戦では全体で三・七トンのごみを回収しました。



女であることの
損と得 (2)

前回は女性として「得」なことについて話題を提供しましたが、今回と今回は女性であることの「損」について考えてみましょう。

女性が損をする例としてすぐに思い浮かぶのは、労働に関することでしょう。学生時代は「男女平等」の環境にあっても、いざ就職活動が始まるとたんに、女性であることの「損」を痛感した人は少なくないはず。就職しても、単純労働や補助労働にしか従事させられなかったり、賃金や昇任などの待遇面で、明らかに男性より不利だったりする例は数多く挙げられています。またセクシュアルハラスメントの被害に遭いやすいのも圧倒的に女性です。

★女の行動を制限する性的犯罪

労働の現場だけではなく、社会生活においても「夜間の一人歩きができない」「門限がある」「痴漢に遭う」など、女性が男性の性的欲求の対象になるという問題があります。時にはストーカーなど犯罪行為の被害者となる場合さえあるのです。

★言う前に考えて

家庭生活でも、親の期待や教育に対する考え方などで男の兄弟とは違う育て方をされたという女性も少なくないのでは。「女が大学に行っても無駄」「どうせ嫁にくれるんだ」「女は料理・洗濯・掃除さえできればいい」…。兄や弟と比較して「女だから」と期待をかけてくれない、親の何気ない一言は、たとえジョークとしても、子ども心にはショックなのではないでしょうか。

★男女平等は家庭から

注意しなければならないのは、そのような考え方が次世代において再生産される可能性が高いという点です。人が性別にとらわれずに、その能力を十分に生かすことができる社会は、まず家庭生活からつくられるのかもしれません。

「おしゃべりさん」は白根学習館ホームページでもご覧いただけます
(<http://pc2.gakushyukan-shirone-unet.ocn.ne.jp>)